太陽の子

２０２３年　10月　№.１８５

秋　の　号
発　行
日立市助川町５－14－８
TEL(23)2620　FAX(33)9150
ホームページ　http://www.taiyonoie.com
Eメール　npo@taiyonoie.com
ＮＰＯ法人 日立太陽の家
日立重症心身障害児(者)を守る会
日立太陽の家支える会

グループ活動でアートな世界に挑戦、素敵な作品が完成しました。　（太陽の家）

育児休暇から得た新たな気づき

日立市太陽の家 サービス管理責任者　冨岡昌弘

育児休暇を取った1か月間、仕事から離れ家庭で子育てに専念する貴重な時間を過ごしました。この経験は、私にとって非常に意義深く、心温まるものであり、新しい視点を得ることができました。

最初の数日は、育児に対する不安と期待が入り混じった複雑な気持ちでいっぱいでした。次第に子どもとの時間が進むにつれ、私の心に深い愛情が生まれ、日々の成長を間近で見ることで、自分自身の成長も感じました。子どもの純粋な笑顔や成長を見守ることは、私にとって大きな喜びとなりました。

育休を取ることで、家族との絆が強まったことも感じました。パートナーとコミュニケーションを通じて、家族全体で協力し合う大切さを再認識しました。

また、太陽での仕事と家庭の育児の両方を経験することで、お互いの責任と役割の重要性を実感しました。仕事と育児の両立は簡単ではないことを理解し、今後の自分の働き方や時間の使い方について考えるきっかけとなりました。

今回、育休を取得できたのは、職場や保護者の皆様の理解と協力があったからです。育休中の業務の引継ぎやスケジュールの調整など、同僚たちの協力がなければ、育休を取得することが難しかったことでしょう。

長いようで短い期間ではありましたが、育児休暇を通じて家族や自分自身に対する新たな気づきを得ることができました。

これからも、この新たな視点を活かし、より良いサービスを提供できるよう努力し精進したいと思います。

永年勤続10年の節目を迎えて

10年を振り返って

日立太陽の家 居宅介護事業所
齋藤 静雄

「やってみますか？」職員にうながされ、水分を口元に持っていく。

タイミングが合わずにこぼれ落ち頬を濡らした。「ごめんね……」。気遣うように「大丈夫ですよ。すぐに慣れますから……」。こうして新たな一歩が始まった。定年退職後に、ふとしたことで介護の資格を取得した。

物づくりの組織にいた私にとって、第二の職場は自身が試される領域でもあった。

和やかな空気が流れる中で、一日の準備のため荷物を広げる。几帳面に畳まれた何枚ものバスタオルや着替えの衣類、飲み物や薬など、数多くの物品が目に入る。子を思う親の心情が手に取るように伝わる。

移乗に始まり入浴・更衣・食事・口腔ケア・排泄などへの関わりは同じように見えても、一人ひとりの個性に応じて、その対応は実にさまざまだ。言葉や表情、身体の動きや声かけの反応などから意図や変化を推し量る。だが、そのような余裕はなく、しばらくは、ぎこちなく慣れない日々が続いた。

「風の家」の深夜の見回りでのこと。眠りにつけずに布団からはみ出ている子を、添い寝をしながらの絵本の読み聞かせ、思うように整わずにやり直しを繰り返したおむつの交換など、どれもが遠い日に、幼い我が子に、同じようにしていた記憶と重なった。時が経つにつれ、その一つひとつが、何故か、楽しいと思えるようになった。

人生の余白に、人を真ん中にした仕事に携われたことは幸せだった。

この世界に入って、言葉では表せない多くのことに気づかされ、見えたものがあった。まさに、書物にはない学びの空間である。未熟な関わりを受け入れてくださった利用者さんに、そして、居宅の仲間に助けられ、10年の節目を迎えられたことに心から感謝したい。

これからも

日立市ひまわり学園
鈴木 美保

10年前、太陽の家に初めて見学に来たときに、利用者の笑顔にひかれ入職を決めました。毎日素敵な笑顔を見て仕事をすることができ、あっという間に10年が過ぎてしまいました。

10年の間には、楽しい事、辛い事、嬉しい事、厳しい事などいろんな事がありましたが、10年間の中で私は2つの事を大切にして頑張ってきました。

1つ目は、「一日一回笑おう」ということです。ある日女性の利用者と楽しくおしゃべりをしていると、その様子をちょっと離れた場所で見ていた利用者が一緒になって笑い、笑顔の連鎖が起こっているのに気づき嬉しく思いました。

2つ目は、「感謝」です。利用者の方々のサポートをする仕事ですが、利用者の方からは元気をもらうことが多くあります。先日私が咳き込んでいると、すーっと近くに寄ってきて背中をトントンと優しく叩いてくれて、とても心が温かくなる事がありました。見ていないようで私達を見守ってくれる利用者の方々には感謝しています。

辛いときには、「一日一回笑おう」を思い出し、どんなことでもいいから大きな声で笑うことを気にかけ、笑わせてくれた方には感謝をして日々過ごしています。まだまだ勉強不足ではありますが、この2つのことをこれからも大切にして利用者に寄り添い、過ごしていけたらと思います。

相談支援専門員として思う事

日立太陽の家 相談支援員
沢幡 理華

NPO法人日立太陽の家に入職して10年、現在は相談支援専門員として活動させて頂きながら毎日があっという間に過ぎています。

1年もあっという間です。担当の利用者さんと同じ数だけのさまざまなケースがあり、なにが正解？正解は何なのか？といつも考えています。

利用者さんやご家族のためどんな道が開けるのか？どのような手段があるのか？時には、サービス担当者会議を開くこともあります。自分が中心になって開く会議の時はドキドキです。連携する機関、市役所、事業所との情報共有を行いながら本人の気持ちや家族の気持ちにより添っているのか？など悩みながら関わらせて頂いています。ベストのサービスを探求し、想いが詰まってしまいそうな時もあります。

また、すべての利用者さんが同じ生活を過ごしてきたわけではありませんので相談支援で関わっていく中で今まで見えていなかった事が見えてくる時もあります。その都度、見直しをしていきながら、どの道を本人が希望し、それは本当に望んでいる道なのか？検討する事も必要です。

利用者さんやご家族のため提供したサービスはこれで間違いなかったのか思い悩むとき、利用者さんの笑顔や笑い声、仲間に助けられ、ここまで続けて来る事ができたのだと思っています。中には新しい出会いや悲しい別れもありましたが私の中では別れでは無く、いつもみんなを高いところから見守っていてくれていると思っています。自由に太陽へ行ったり来たり……ここでも支えて貰っています。(^^)

関わらせて頂いたひとつひとつ全ての出来事が私の財産になっています。これからもたくさんのみなさんに助けて貰いながら相談の仕事に携わっていけたら……と思っています。

日立守る会だより

日立重症心身障害児（者）を守る会

みんなで考え、みんなで活動を

佐藤芳昭

コロナ禍が収まった様に聞いているが、実はそうではなく重症の患者が減っているだけで、本当は軽い症状の感染者は前より増加しているとの声が巷で囁かれている事も事実である。この様な状況下で、ショートステイの受け入れ先も儘ならぬ様に聞いている。最近は在宅障害児者に対する支援体制の充実が図られている事に対しては感謝をしなければならない。しかし、重度の重複障害児者の在宅支援体制については、ショートステイの受け入れ先は日立市内に殆ど無いのが現状である。行政としても種々努力をして下さっていることには敬意を表さなければならない。しかし、その様な状況の中でどんな進め方を取れば良いのか。

私が思うには、重い障害児者を持つ親御さん達が一堂に会して話合いを持ち「何が困っているのか」「どんな問題があるのか」「そして困っている事や問題項目についてどうしてもらいたいのか」等々、他の団体で同じ様な悩みを持っている親御さん達を仲間に入れてでも、自由な話合いを持つことが重要ではないかと思うのです。個人的には色々と思っていることがあると思うし子供の事を考えれば必ず一つや二つは何か有る筈です。そして出てきた項目を整理し夫々の項目について、それを解決するためにどの様に行動していけば良いかについて、みんなで纏め上げる事だと私は思うのです。私も長い間微力ながらこれらの活動に皆さんと一緒にやってきましたが、なかなか思う様に事が運ばず申し訳ない気持ちと、自責の念と、複雑な心境でこれを書いております。

何と言っても親御さんの声程強いものはありません。みんなの声をどんどんと表に出していく事が大事なのです。私にも責任の一端はあるのですが、ある時期まで色々と活発に動いてきた時期がありましたが、それが今は全体として動きが薄くなっている様な感じがするのです。

障害者長期福祉施策等の中に「おおみかけやき荘の建て替え」についての項目があると思います。「けやき荘」は建て替えの時期にきているらしく、この時期に重度重複障害児者の終の棲家となる場所、即ち入所できるベットの部屋を何部屋か造ってもらう等の働きかけをしていく等乗り遅れないようにしないとなりません。だからこそみんなで話合いみんなで活動することが大事なのです。めいめいがめいめいの方向を向いて動いていては纏まりがなくなり焦点がボケてしまいます。

皆さん、保護者同士が集まって、他の団体の人達も仲間に入れて前述の様に膝を突き合わせながら、時間を掛けてでもやってみる必要はありませんか。いまさらと思われる方もいると思うのですが、その様に思う人も含めて、みんなで話し合うこと。それ自体に意味があるのではないでしょうか。

前から良く言われておりますが障害児者の福祉施策が実現する迄には十年を要する。だからこそ、根気強く、粘り強く、挫けずに、親御さん達が一致協力して物事を進めていくことが重要なのです。

皆さん、我が子のしあわせを考えた時、この辺でやってみることも、あながち無駄では無いと思うのですが、皆さん方は如何思われますか。

私の思っている一端を申し述べてみましたが、言うは易く行うは難しですが、子供のために何時かはやらねばならないと思うのです。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

息子の夏

椎名　幹子

毎年、七月中旬から、八月のお盆の頃までの登園しない日に、家庭用プールで、水遊びをします。プールに水を張っていると、プールが見えない部屋にいるのに、何を言っていなくても、雰囲気でわかるのか、窓際まで移動し、ガラス戸を叩いて「早く！」と言わんばかり。親は「何でわかるんだろうねぇ」と不思議に思っています。いざ、入ると、〝バッシャン、バッシャン〟と水しぶきを上げ、大喜びです。オモチャ等は何もいらず、ただ、自分の手で水面を叩き水しぶきを上げているだけです。右腕で体を横向きに支えているので、日焼けは背中と左足になり、親が仰向けにして支え、お腹を焼こうとしても、すぐに横向きに戻ってしまいます。息子の大好きなプールでの水遊びをさせてやりたいという思いはあるのですが、二人で息子を車イスに乗せるのにひと苦労。車イスからプールへ下すのにひと苦労。この往復、息子は嬉しくて体を突っ張って手を大きく振り、私たちはフラついてしまいます。「あと何年プールに入れてやれるかな」という話で水遊びが終わります。水遊びの次は、高校野球を見ます。テレビの前に陣取り、金属バットの「カキーン」という音や空振りを見ると声を出して喜んでいます。

今年も暑い日が続きました。皆さんは、どのように過ごされましたか？

茨城高専の生徒さん達とのふれあいの時間、いつもの療育が賑わいました。（太陽の家）

運動会の練習風景、準備はバッチリ！（ひまわり学園）

野菜の収穫に汗を流しながら充実した時間を過ごしました。（しいの木学園）

暑い夏、３年ぶりのプール開き！みんなで楽しみました。（母子療育ホーム）

※写真撮影のためマスクをはずしています

毎日の生活の中で

高田　多美子

日々、昔と違う猛暑が続く夏になり、コロナも５類になったとはいえ、まだ増えている事に変わりありません。障がい者や高齢者の居る家庭は以前と変わらずマスクは必需品です。暑さは、体力を奪うので汗や息苦しさがあり、とてもストレスになります。地球温暖化で年々気温が上昇すると言われ、外国でも自然発火の山火事が増えたり、日本だけではない暑さが世界中で起きている事が怖くなります。今年の夏は、インフルエンザ、ＲＳウイルスなど、流行の季節ではない時期に感染したり、一年中様々なウイルスに注意していないとならないと、今までの常識とは違ってきていると感じています。

息子も昨年と今年と体調を崩して入院する事があり、コロナ禍で感染対策をしていても、免疫力が低下している事に気づけていなかったり、毎日の体調の変化を見逃していたなぁと反省するばかりです。

自分の体調にも気をつけながら、ストレスを溜めないよう過ごしていきたいと思います。

お知らせ

◎二〇二三年度
ＮＰＯ法人日立太陽の家
利用者総数　三百八十二名
男性　二百二十四名
女性　百五十八名

ご寄付ありがとうございました

○次の方から寄付を頂きました
（敬称略）　六月～八月
黒澤　弘明
とく名
日立ロータリークラブ
赤津ハウス
ＮＰＯ法人
日立太陽の家支える会

○次の方から物品の寄贈がありました
（敬称略）　六月～八月
椎名　将光
大森　健二
村田　啓子
沢幡　栄

編集後記

秋の気配がそこかしこに、小さい秋を探して楽しみましょう。（Ｋ記）